

かしわぎ

<http://www.shinjuku.ed.jp/es-kashiwagi/>


2月号
第235号
平成29年
1月31日発行

学ぶ楽しさ

副校長 越田 邦彦

1月23日(月)の朝、柏木小のプールが凍っていました。特別寒い朝でした。これまでプールが凍ったという記憶がなかったため、珍しく思ってプールサイドに行ってみました。気温は-1度。なるほど、水は0℃で凍るという、以前理科で実験したとおりの現象だなと、一人納得します。表面は見る限り全て凍っています。試しに足先で突いてみますと、かすかに上下する手応えがあります。どうも数 cm 下は凍っていないようです。上に乗ると間違いなく割れて水没しそうなので、そこで朝の冒険(?)は終わりました。

ここでふと疑問が浮かびました。なぜ水は表面から凍り、下の方は水のままなのでしょう。自分はこれまで「水は外気に冷やされるので外気と接している表面の温度がまず下がるから」「また、水は空気と比べて冷めにくく温まりにくい物質なので、内部には昨日の昼間蓄えた熱が残っているから」と思っていたのです。しかしよく考えてみると、冷たい水は重いはずなので対流によって底に下がり、逆に温かい水は軽いので上にいき、下から凍らないとおかしいです。他にもいくつか仮説は思いついたのですが、なぜ上から凍るのか正解はわかりません。

そこで調べてみました。水は冷えるにしたがってだんだん重くなっていくのですが、一番重いのが摂氏約4℃で、そこから温度が下がるにしたがって、今度は軽くなっていくのだそうです。つまり、外気に冷やされた上部の水は重くなってプールの底に沈んでいくのですが、温度が4℃よりも下がると今度は軽くなるため上に留まり、そして0℃を境に上から凍っていくということだったのです。

と、長々と書いてきたのには訳があります。答えがわかって、私は何だか得をした気になりました。冷静に考えると全く得などしていないのですが、ただ、「知らなかったことを知る」ということは楽しいものなのです。同じく、「できなかったことができるようになる」のも嬉しいものなのです。

最近、アクティブラーニングが注目されていますが、それとともに学ぶことの原点である「知る楽しさ」「できる楽しさ」も重要です。柏木小の子どもたちが少しでもそんな楽しさや嬉しさに出会えるよう、私たち教職員は工夫を凝らして授業に臨んでいます。



2月の行事予定

1	水	安全指導
2	木	プラネタリウム見学4年
3	金	出前授業4年〔ブラインドサッカー〕1・2校時
4	土	※今月は予告なしで避難訓練を実施します。
5	日	
6	月	全校朝会 委員会活動
7	火	柏葉学級お別れ遠足
8	水	午前授業
9	木	たてわり班活動(朝) 薬物乱用防止教室6年
10	金	なわとび月間(終)
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	全校朝会 クラブ活動(終)
14	火	新1年生保護者会
15	水	5時間授業
16	木	児童集会(お店紹介)
17	金	学校公開Ⅲ
18	土	学校公開Ⅲ 柏木フェスティバル
19	日	
20	月	全校朝会
21	火	演劇鑑賞教室5年
22	水	
23	木	
24	金	6年生を送る会練習(各学年)
25	土	
26	日	
27	月	全校朝会 6年生を送る会3・4校時
28	火	
1	水	午前授業

(※毎月17日は、給食費・教材費の引落日)

2月の生活目標
きまりを守って生活しよう

6年生を目前にして

5年担任 安部 剛史 高橋 あゆ

もうすぐ6年生になる5年生。最高学年に向けて、少しずつ準備を始めています。「下学年の憧れの高学年になる！」「気配り・心配りをする！」「自分たちで考えて行動！」等、6年生を見据えながら生活しています。そんな5年生に取ったアンケートの一部をご紹介します。

【柏木小の6年生の凄いところ】

○優しくて頼りがいがあり、信頼できる。
○下級生に優しく、学校全体をまとめられているところ。
○たてわり班で盛り上げたりまとめたりしているところ。
○クラブや委員会でいろいろなことを教えてくれる。
○委員会で使った去年の資料や記録も残していたこと。

【こんな6年生になりたい！】

○6年生に助けられたので今度は自分たちがまとめたい。
○下学年に優しく、学校全体をまとめられるような6年生。
○下学年を楽しませられるような6年生になりたい。
○切り替えができて、低学年に憧れられる6年生。
○自分たちで行動できる6年生になりたい。
○積極的に手伝いをする。
○自分から困っている人に声をかけられるような人。
○自分から挨拶ができる6年生。

今の6年生の姿を手本に、来年は自分たちが頑張りたいという気持ちが伝わってきます。まずは、2月の縦割りでの「リーダーデビュー」を目指して取り組んでいきます。

「—————」

生活指導主任 安部 剛史

上の題名読めますか？線を引いてみました。今回はこの「線」についての話を書かせていただきます。

「自分のやりたいことは何でもやっちゃえ」という「自主性尊重」のはき違いによって「節度」がない子どもを最近よく見かけます。レストランや公共施設でも騒ぎまわる子どもは沢山いますし、近くにいたる親もそれを咎めないで、むしろほほえましく(?) 見ているという場面もよくあります。子どもたちは大抵の場合、「悪気」があるわけではなく、まさに屈託なく、節度ない言動をとっています。そこには自分の中に行動の基準がないのです。そこで必要になってくるのが「線を引く」ということです。

電車のホームには線が引かれています。その線を越えることは危険だというのは皆わかります。一方で、世の中には目に見えるように線は引かれていないけれど、出てはいけぬ線もあります。子どもたちは大人から諭されたり、叱られたりしながらその線をどこに引けばいいのかを身につけていきます。自分の言動について「自分で線を引ける」そのことこそが「自律」ということではないでしょうか？

子どもたちがきちんと線を引けるようになるために学校全体で努力していきたいと思います。

柏木フェスティバル

特別活動主任 佐藤泰子

毎年子どもたちが楽しみにしている「柏木フェスティバル」を2月18日に行います。

昨年末より、2年生から6年生まで、学級ごとに、どのようなお店を出店するか学級会で話し合いをしてきました。今年も、各クラスで思考を凝らしたお店が出店予定です。

1年生はお客さんとして回りながら、来年度の出店に向けて思いをめぐらせます。

また、委員会もフェスティバルの成功に大きくかかわっています。集会委員会はお店紹介集会を、代表委員会はフェスティバルの開閉会式の司会進行やアナウンス、数多くのお店を回るためのスタンプカードの用意を担当しています。楽しく行うための準備が、いろいろなところで進行中です。

フェスティバルでは、各クラスのお店以外にも、PTAの方々によるボッチャ、地域の方々が開いてくださる茶道コーナーや絵手紙のコーナー、そして閉会式では、大江戸ダンスやカボエイラの披露などがあります。地域の皆様のご協力で、毎年子どもたちが楽しむことができます。

当日は児童優先ですが、保護者・地域の皆様もご参観いただくことができます。ぜひ、子どもたちが考え協力して作り上げたお店をのぞいていただければと思います。そして温かい励ましの言葉をかけていただければ幸いです。

金づち、のこぎり、電動糸のこ、ペンチ

図工専科 穴戸 恵吾

上記の道具は、それぞれ3、4、5、6年生が、図工の授業で初めて使う代表的な道具です。

工作で紙が中心だった1・2年生は、3年生になって木を扱います。木は、紙のようにはさみで切ることができないし、のりでくっつけることもできません。

そこで、新たな道具として必要になるのが金づちと釘です。のりの代わりに金づちで釘を打って木と木をくっつけます。木の形を変えるのに必要な道具がのこぎりです。のこぎりは、4年生で扱います。まずは長いものを短く切るところから始めますが、なかなかうまくいきません。カモイります。5年生は、さらに細かい操作で木の形を変えるため、電気で動く糸のこぎりを使います。機械のその形から、ミシンと呼ぶ子どももいます。最初は恐怖心で一杯ですが、思いどおりに切れるようになると楽しくなってきます。6年生では、さらに新しい道具を使います。針金を切ったり曲げたりするのにペンチを使います。これらの道具、ちょっと使い方を誤ると、けがをします。子どもたちが痛い思いをしなくて済むように、安全指導には細心の注意を払っています。いつも楽しくて安全な図工の授業というのが私の一番の目標です。

